

# 絆

被害を最小限に抑えるには、**自助・共助・公助**それぞれが役割を果たしていくことが大切です。

- 「**自助**」とは、自分の身を自分の努力によって守る事です。
- 「**共助**」とは、身近な人たちがお互いに助け合うことです。
- 「**公助**」とは、国や県などの行政機関による救助・援助です。



このうち、「公助」のみの災害対策には限界があり、平成7年の阪神・淡路大震災の教訓から「自助」「共助」が極めて重要になります。

地震による犠牲者の多くは、地震発生直後の建物倒壊や家具の転倒によるものです。また、津波は地震発生後に短時間で襲ってきます。このため、地震直後の災害から身を守るためには、みなさん自身が「自分の身は自分で守る」、「自分の地域の地域は自分たちで守る」という考えを持ち、地震に備えることが必要です。

そうは言っても現代、人と人のつながり、地域のつながり、コミュニティが希薄になっており難しい面もあります。しかし、今回の災害で被災した人、しなかつた人も

考え始めたのではないのでしょうか。「家族や近所での助け合いや支え合いが大きな力を生む」と。

**助け合いや支え合いが大きな力を生む**

「15000人ものボランティアの方が津波などで出た瓦礫撤去や炊き出しなどにあたっていたいただきました。ありがとうございます。また、スムーズにボランティアの方が動けたのも地元消防団のおかげです。」と話すのは、木戸浜区長渡辺さん。震災当時は、区長ではなかったが、新しく区長になり消防団の身を削っての働きに感銘を受けたひとり。

消防団の有志から「被災した事は、東北も関東も同じ被災者。ぜひ東北に恩返しに行きたい」と相談があり、区で何とかならないかと考えました。震災時、自分の家が被災しても地域住民のため、惜しみなく働いてくれた消防団員。

全面的に協力すると約束し、災害ボランティアに送りだしました。

※ボランティア全般についてのお問い合わせは、山武市ボランティア・市民活動センターへ

☎(89)2121